

02

検体の前処理について

検査が実施されるまでの主な工程は、到着確認、検査項目ごとの仕分け、生化学や免疫、凝固などの検体を遠心分離、開栓、血清・血漿の分注などがあります。測定前の転倒混和が必要な血沈などは攪拌機で規定された時間攪拌されます。

このように検体を検査装置にかけるまでの工程を検体前処理と呼び、この検体前処理は時間も労力もかかる上に検体との接触による感染やヒューマンエラーなどのリスクを回避するため、自動化されることが望ましい作業と言えます。さらに自動化することで作業の標準化が望めます。